

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第40週	第39週	第40週		第39週		第40週		第39週		第40週		第39週		第40週		第39週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	69	3	0	5	0	1	0	3	0	0	0	0	0	3	0	2	0
感染性胃腸炎	99	80	24	4	30	3	23	3	30	3	0	0	0	0	1	1	0	0
水痘	12	6	1	3	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	0	2
手足口病	27	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	12	16	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
突発性発疹	33	23	3	0	4	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0
ヘルパンギーナ	111	107	4	1	3	2	2	0	1	0	0	1	0	1	2	0	2	1
流行性耳下腺炎	4	16	1	0	4	3	0	0	3	1	0	0	1	2	1	0	0	0
RSウイルス感染症	76	103	4	0	7	2	4	0	6	0	0	0	0	2	0	0	1	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	0
流行性角結膜炎	15	17	0	2	0	1	0	2	0	1		0		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
流行中	現在、流行中の感染症はありません
小流行中	<p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈ヘルパンギーナ〉 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p> <p>〈RSウイルス感染症〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>
	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p> <p>※糞口感染 接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。</p>

福島県内で3例目の風しんの発生がありました

○福島県内で3例目の風しんの発生報告がありました
 ・福島市の50代男性が風しんに感染していたことが、医療機関で検査し確定しました。

○全国での風しん流行状況

- ・平成30年9月30日までに952例の届出がありました。
- ・多くは30~50代の男性を中心に報告されています。
- ・発生届の増加が続いているのは東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県及び愛知県です。

○感染を予防するには

- ・風しんに対する特異的な治療法はありませんので、感染しないように予防することが大切です。
- ・感染を防ぐ最も有効な方法は、予防接種を受けることです。今回は30~50代の男性を中心に流行していますので、母子手帳等で風しんの罹患歴、風しんの予防接種の有無を確認しましょう。必要に応じて主治医に相談し予防接種を受けましょう。

○風しんの抗体価検査・予納接種についての問い合わせ

風しんの抗体価検査・予防接種の助成の有無はお住まいの市町村によって異なります。助成の有無・内容についてはお住まいの市町村にお問い合わせください。

風しんの報告数が増加しています
体調不良の時はムリしないで

感染拡大防止のため

風しんは
 感染者の飛まつ(唾液のしぶき)などによって他の人にうつる感染症。風邪によく似ており、感染すると、発熱、発疹、リンパ節腫脹といった症状が認められ、多くの場合は数日で治ります。

心配なのは
 妊娠早期の妊婦が風しんにかかると、出生児が先天性風しん症候群(眼や耳、心臓に障害が出る)になる可能性があるため、注意が必要です。

どこで?
 風しんは咳・くしゃみで他人にうつるため、特に、学校、職場、公共交通機関などの人が集まる場所で感染が拡大する恐れがあります。

みんなにできることは

- 体調がすぐれない場合には、ムリして外出しないでください。
- どうしても外出が必要な場合には、咳エチケットを徹底しましょう。
- 風しんを疑う症状(発熱、発疹など)が出現した際は、医師に相談しましょう。